

大分県STEAM教育推進業務委託仕様書

1 委託業務名称

大分県STEAM教育推進業務委託

2 業務委託期間

契約締結時から令和9年3月31日まで

3 事業の概要・目的

本県教育委員会では、AIやIoTなどの急速な技術の進展やグローバル化など社会が大きく変化している中、文理の枠を超えたSTEAM教育を通じて、課題発見・解決力やデータサイエンスなどの力を活用し、地方創生に貢献する多様な人材の育成に取り組んでいる。

本事業では、県内外(国外含む)の関係企業、団体、大学などとの協力を通じて、教員の人的ネットワークを構築し、STEAM教育の推進を図ることで、大分県の生徒の非認知能力を育成することができる体制を構築する。

また、生徒の現代的諸課題の解決に向かう思考力・創造力の源となる「データサイエンスの力」を育成する機会を創出する。データサイエンスや宇宙、脱炭素、生成AI等に関する先端技術、関連産業等を主要テーマとし、生徒向けの各種イベントや課題研究等の探究型の学習を提供する。

4 業務内容

(1) 企画調整業務

(2) STEAM教育の推進に係る業務

(3) 広報関係業務

(4) 各企画の運営・実施業務

i) データサイエンス実践講座

日時: 令和8年6月6日(土) [1日]

会場: 大分県教育センター

対象: 県内高校1、2年生、教員、一般 約200人

内容: データサイエンスをテーマにした各種の探究講座や体験型ワークショップ

ii) 課題研究成果発表会

日時: 令和8年7月19日(日) [1日]

会場: ホルトホール大分

対象: SSH 校代表グループ、県内高校1、2年生代表グループの10グループ及び

iv) STEAM 課題研究特別講座参加者、教員、一般 約150人

内容: 学校で取り組んだこれまでの課題研究の成果発表

iii) OITA FUTURE SPACE JOBS

日時: ※要提案 [半日を想定]

会場: ※要提案 ※開催日時、会場について提案すること

対象: 県内の中・高生 約100人

内容: 宇宙等をテーマとした多様な分野で活躍するトップランナーによる講演や体験型ワークショップを通じて、参加者が自身の進路(キャリア)と結び付けて考える機会となるワークショップを開催

iv) STEAM課題研究特別講座

日時:令和8年7月～令和9年1月までの間に12回

会場:大分県教育センター等

対象:県内高校1、2年生 約50人

内容:学校や学年の枠を越えた数人のグループによる課題研究の実施

v) 教員向け「データサイエンス×探究の質向上講座」

日時:※いずれも半日で実施

①令和8年5月27日(水):データサイエンススキルアップ講座

②令和8年9月16日(水):PBL(Project Based Learning)実践講座

③令和9年1月20日(水):「総合的な探究の時間」「課題研究」事例発表・研究会

会場:大分県教育センター

対象:県内高校教員 約60人

内容:「総合的な探究の時間」や「課題研究」等の授業の指導において必要となるデータサイエンスに関する知識や実践的な手法を学ぶ講座

vi) 大分 STEAM FESTA

日時:令和9年1月30日(土) [1日]

会場:大分県教育センター

対象:県内高校1、2年生、教員、一般 約200人

内容:STEAM課題研究特別講座各グループの成果発表、データサイエンスや宇宙、生成AI等をテーマにした体験型ワークショップの実施

vii) 宇宙甲子園事前ワークショップ

日時:※要提案 [1日を想定]

会場:※要提案

対象:県内の中・高生 約50人

内容:宇宙甲子園ロケット部門への出場に向けて、中高生が、事前に宇宙分野の知識・課題認識・チームワーク力を身に付けるための実技を伴う講座を実施

(5) 動画コンテンツの作成・編集・公開

- ・課題研究成果発表会
- ・課題研究の好事例

5 業務内容(詳細)

(1) 企画調整業務

ア 統括責任者の設置

- ・大分県 STEAM 教育推進コーディネーター(以下「STEAM コーディネーター」という。)を1人以上配置し、全体を統括すること。
- ・原則として、委託業務に関わる連絡等は統括責任者に対して行う。

イ 打合せの実施

- ・委託者の求めに応じて打合せ等を行い、必要な調整、指導や助言を行うこと。
- ・打合せ内容の議事録を作成し、関係者間で共有すること。

ウ 各催事等の運営業務

- ・各企画が円滑に行われるよう、運営及び進行の管理を行うこと。また、各催事に必要な人員を配置すること。

エ 関係機関との折衝

- ・大分県教育委員会、大分県(商工観光労働部など)、県内高校、県内外(国外含む)の関係企業・団体・大学等と必要な調整を行うこと。

オ 各企画の資料作成

- ・各企画に関わる資料等を作成すること。

カ 業務を実施する際の会場費、講師、ファシリテーター、メンター、関係企業・団体・大学等との調整及び謝金等の支払いをすること。

(2) STEAM教育の推進に係る業務

ア STEAM教育推進ネットワークの構築

- ・STEAMコーディネーターを中心に、本事業に関わる県内外(国外含む)の企業・団体・大学等と、県内各高校で本事業を担当する教員が連携できるよう調整し、STEAM教育に関する情報共有等が可能な人的ネットワークを構築すること。

イ STEAM教育推進プログラムの提案

- ・本事業の実施成果及び国内外の状況を踏まえ、本県におけるSTEAM教育の推進に係る提案を行うこと。

(3) 広報関係等業務

ア HP管理等・運営業務

- ・本事業の各企画等について、HPやSNSで写真や映像等を掲載し情報発信を行うこと。
※本事業に関わる情報発信等を行うため、令和8年6月初旬までに公開を開始すること。
- ・各種講座の参加案内や、オンライン講演の配信案内を行うこと。
- ・大分県内のデータサイエンス、宇宙、脱炭素、生成AI等に関わる情報やSTEAM教育に関する情報発信等を行うこと。
- ・データサイエンス、宇宙、脱炭素、生成AI等の関連研修の情報発信スペースを準備すること。
- ・課題研究の動画コンテンツ作成・編集・公開を行うこと。
- ・その他、委託者と受託者協議の上、指定する情報について掲載、発信を行うこと。

イ プレス対応業務

- ・本事業の取組について、国内のプレス等に積極的に情報発信を行うこと。

ウ 各種講演会、会議等へのプレゼンテーション資料作成支援業務

- ・大分県が各種講演会や会議等で、大分県のSTEAM教育の状況を説明するための、プレゼンテーション資料及び紹介動画等の作成支援を行うこと。

(4) 各企画の運営・実施業務

i) データサイエンス実践講座

生徒の現代的諸課題の解決に向かう思考力・創造力の源となる「データサイエンス力」を育成するため、県内高校1、2年生の生徒約200人を対象に、データサイエンスに関する各種講座、グループワーク等で実感・体験できるイベントを行うこと。

イベントは下記項目を盛り込んだ上で、具体的な内容や所要時間については企画提案とする。

ア 事務局業務

- ・事前案内資料、プレス資料、運営マニュアル、危機管理マニュアル、全体進行資料を作成すること。
- ・参加フォーム等を作成し、参加者のとりまとめを行うこと。
- ・運営マニュアルには下記を盛り込むこと。
(会場配置図、会場スケジュール、物品等搬入スケジュール、ゴミ処理計画、関係者名簿)
- ・運営に必要なスタッフを配置すること(通信機器等のスタッフ含む)。

イ 会場設営業務

- ・配信機器等の設営を含む会場設営を行うこと。
- ・原則、備品・什器等は会場備え付きのものを使用し、不足が生じる場合は、受託者が準備すること。
- ・必要に応じて養生等を行うこと。
- ・イベント終了後は原状復帰を行うこと。

ウ 受付・総合案内業務

- ・参加者受付、資料配付、落とし物対応等を行うこと。
- ・一部参加者(来賓等)については、委託者の指示に基づき対応すること。

エ 開会・閉会行事の企画・実施

オ データサイエンスに関する講座と体験型企画の実施

- ・データサイエンスに関する講座を企画・実施すること。
- ・グループワークや実験など、生徒が体験できるワークショップを企画・実施すること。
- ・講師の選定・折衝・対応等を行うこと。
- ・各企画で必要となる配付資料、物品等を準備・配備すること。

カ STEAM課題研究特別講座の紹介

- ・年間を通じて行うSTEAM課題研究特別講座への案内を行うこと。
- ・研究テーマは生徒自身が設定するが、設定するヒントとなるような企画を行うこと。
- ・特に宇宙技術、脱炭素、生成AI、データサイエンス、STEAM探究に関わる企画が望ましい。

キ 危機管理対策

- ・必要に応じて、会場内及び会場外に警備員等を配置すること。
- ・救護スペースを準備し、救護用品等を配備するとともに、近隣病院との連携など、緊急事態時の医療対応を行うこと。

ク その他

- ・イベント準備から当日までの期間、運営スタッフや参加者の怪我や生命保障、建物や物品等の損害補償に対応できるイベント保険等に加入すること。
- ・会場の撮影等を行うこと。
- ・会場費の支払いが生じる場合は受託者が支払いを行うこと。
- ・アンケート作成・集計を行うこと。

ii) 課題研究成果発表会

ア 事務局業務

- 5(4) i) イに加え、下記の点について留意し実施すること。
- ・参加者については、発表者及び課題研究特別講座参加者、一般参加者とする。

(※発表者は SSH 校、県内高校から選抜された10グループ、課題研究特別講座参加者は下記 iv)の申込者。)

- ・会場配布用資料を作成すること。
- ・関係者、一般から希望がある場合は、オンライン配信等を行うこと。
- ・事前に確保している会場(ホルトホール大分)の使用に係る書類(利用計画書やエントランスホール利用詳細確認シート等)を作成し、適切に運営できるよう手続きを行うこと。
- ・配付資料や会場チラシ等を活用し、事前に研究講座の内容の周知を図ること。

イ 会場設営業務

5(4) i)イと同じ。

ウ 受付・総合案内業務

5(4) i)ウと同じ。

エ 開会行事・閉会行事の企画・実施

オ 課題研究成果発表会の運営・実施

- ・午前は成果発表会、午後は交流会を実施するものとする。
- ・発表者は、午前は「動画コンテンツ作成」の録画を別室で行い、その後エントランスホールにてポスターによる成果発表会を行う。
- ・SSH 校代表、県内高校1、2年生代表10グループの成果発表を企画・実施すること。
- ・交流会は、課題研究の質の向上に向けた生徒同士の交流及び指導・助言の場とすること。
- ・発表会及び交流会の審査員(県内大学・企業関係者)の選定・折衝・対応等を行うこと。
- ・10グループの発表については、審査員による審査及び講評を行う。

カ STEAM課題研究特別講座のキックオフ講座(午後)

- ・年間通じて行うSTEAM課題研究特別講座のキックオフ講座を行うこと。
- ・研究テーマは生徒自身が設定するが、設定するヒントとなるような企画を行うこと。

キ 危機管理対策

5(4) i)キと同じ。

ク その他

5(4) i)クと同じ。

iii) OITA FUTURE SPACE JOBS

※開催日時、会場、企画内容について積極的に提案すること

ア 事務局業務

5(4) i)アと同じ。

イ 会場設営業務

5(4) i)イと同じ。

ウ 受付・総合案内業務

5(4) i)ウと同じ。

エ 開会行事・閉会行事の企画・実施

オ 宇宙に関するワークショップの実施

- ・宇宙等をテーマとした多様な分野のトップランナーによる講演を企画・実施すること。
- ・グループワークや実験など、生徒が体験できるワークショップを企画・実施すること。
- ・講師の選定・折衝・対応等を行うこと。
- ・各企画で必要となる配付資料、物品等を準備・配備すること。

- カ 危機管理対策
5(4) i)キと同じ。
- キ その他
5(4) i)クと同じ。

iv) STEAM課題研究特別講座

年間を通じて、学校や学年の枠を超えたグループで課題研究を行うことで、挑戦意欲の醸成や深い学びの実現を図る。研究に際しては、研究テーマに関連した県内外企業や大学の研究者と共に行うことで、より高度・実践的な研究活動を行う。その際、ICTの活用を積極的に行い、データサイエンスを念頭に置いた研究活動となるようにする。

ア 年間を通じた課題研究の実施及び進捗管理・アドバイス

- ・大分県内の県立高校生を対象に、年間を通じた課題研究の取組の企画・運営をすること。
- ・対象者は高校1～2年生の最大50人とし、10グループ程度に分割して研究を進める。
- ・6月のデータサイエンス実践講座の会場にて、課題研究特別講座の紹介等を行い、生徒募集すること。
- ・参加生徒の決定後、7月の課題研究成果発表会にて顔合わせを行い、研究テーマ毎にグループ分けを行うこと。
- ・受託者は受講生徒と連絡を密に取り、研究の進捗状況を把握し、適宜アドバイス等を行うこと。
- ・講座の受講は学校の授業外の活動であることを前提とする(各校の教員の支援を前提としない)。
- ・グループ間の活動状況を共有するため、年間1回以上は中間発表会を行うこと。
- ・月に1回以上は実地(企業・大学・公共の会議室等)で研究活動を行うことが望ましい。
- ・受講者の活動に係る費用(会議室等の使用料、消耗品費、保険料等)は受託者が負担する。
- ・受講者の移動にかかる旅費については受託者が負担すること。その際、受取書等を作成し、支出額を明確にしておくこと。
- ・各グループの研究の進捗状況について管理し、月に1回以上委託者へ報告を行うこと。
- ・研究テーマは生徒自身が設定するが、ヒントとなる情報提供を積極的に行うこと。
- ・各グループの研究において、研究のヒントとなる情報や資料提供等のアドバイスを行うこと。(経済産業省 STEAM Library (<https://www.STEAM-library.go.jp/>)、PLIJ STEAM Learning Community (<https://community.plij.or.jp/>)、東京大学先端科学技術研究センター(<https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>)も参考にすること)
- ・受講者からの質問や、悩み、相談などに適宜対応すること。

イ 専門的な指導者(以下「STEAMサポーター」という。)の選定と実地研究活動の実施

- ・受託者はSTEAMサポーターと連絡を密に取り、研究の進捗状況、支援状況の把握を行うこと。
- ・STEAMサポーターは、グループの研究活動に関わる指導・助言や実験活動の支援を行うこと。
- ・STEAMサポーターは、大学教授や企業研究者等が望ましい。
- ・生徒の研究活動や、遠隔での協議等、グループでの活動に可能な限り参加すること。

ウ メンターの配置

- ・1グループに1人以上のメンターを配置し、メンターが決定次第名簿を作成し提出すること。
- ・メンターは、STEAMコーディネーター及びSTEAMサポーターと適宜連絡を取りながら各グループの研究活動をサポートすること。
- ・受託者は、メンターの活動状況を把握し適宜報告を行うこと。
- ・メンターに対しては事前研修を行い、生徒の研究活動をサポートできる体制を整えること。
- ・なお、メンターに係る謝金、旅費等は受託者が支払う。

エ 課題研究特別講座の成果の活用

- ・各グループが研究した内容については、下記(vi)「大分 STEAM FESTA」で成果発表を行うこと。
- ・研究成果を国内の各種コンテスト等へ申請する際には支援を行うこと。

オ 継続研究のサポート

- ・昨年度、一昨年度の課題研究特別講座に参加した生徒から、継続研究の申し出があった場合、適宜適切なサポートを行うこと。その際、活動に協力する関係者との連絡・調整を行うこと。

v) 教員向け「データサイエンス×探究の質向上講座」

県立高校の教員向けに、STEAM教育の推進や、「総合的な探究の時間」、「課題研究」の授業等において指導するために必要となるデータサイエンスに関する実践的な手法を学ぶ講座及び課題解決型学習(PBL)の推進に関わる講座を実施すること。また、各学校の教員が探究的な学びを実践する場合にサポートできるような体制(各学校間や学校と外部の専門家、事務局などとの人的ネットワークの形成)を整備し、学校での探究的な学びの推進を行う。

ア 講座実施運營業務

- ・各種資料を作成すること。(事前案内資料、受講者用資料、プレス資料、全体進行資料)
- ・受講に関わる必要物品等の準備・配備を行うこと。
- ・運営に必要なスタッフを配置すること。
- ・アンケート作成・集計を行うこと。
- ・講座の様子の撮影等を行うこと。
- ・講座の受講は、学校端末・個人端末どちらでも受講する可能性がある。

イ 企画・運營業務

- ・参加フォーム等を作成し、参加者のとりまとめを行うこと。
- ・年間3回程度、各3時間～5時間程度行うこと。
- ・県内高校の教員60名程度を対象とする。
- ・配付資料や会場チラシ等を活用し、事前に研究講座の内容の周知を図ること。
- ・講座内容は、下記を踏まえたものとし、それに適した講師の選定・折衝・対応等を行うこと。
 - ①「総合的な探究の時間」、「課題研究」の授業等において指導するために必要となるデータサイエンスに関する実践的な手法を学ぶもの。
 - ②学校でSTEAM教育を進めるための考え方・手法・実践例などの講義・演習、STEAM教育の実践に関するもの。
 - ③PBL(課題解決型学習)の授業の作り方・実施フロー・成果等を先駆者から学ぶもの。教員同士での情報交換も行なえると望ましい。

- ・年間をとおして、学校で探究的な学びを実践する場合の課題等について管理機関と協議し、課題に対する改善案を次の講座に反映させること。
- ・学校における探究の授業に課題感を持つ教員を、教育委員会を通して確認し、3校程度意見交換等を行い、アドバイス等の支援を行うこと。

vi)大分 STEAM FESTA

STEAM課題研究特別講座の成果発表や、各校の「総合的な探究の時間」、「課題研究」における課題研究の成果発表を行うとともに、来場する高校生にデータサイエンスや宇宙、脱炭素、生成AI等に関する先端技術、関連産業等を中心テーマに、科学分野に対してより関心を持たせることができるようなイベントを1日間で行うこと。

ア 事務局業務

5(4) i)アに加え、下記の点について留意すること。

- ※ 学校への案内については、冬休み前であるため、12月上旬までに行うこと。
- ※ 県内の一般の来場者(保護者も含む)及び、特に小中学生等の参加を促すような広報を企画・実施すること。

イ 会場設営業務

5(4) i)イと同じ。

ウ 受付・総合案内業務

5(4) i)ウと同じ。

エ 開会行事・閉会行事の企画・実施

オ 課題研究特別講座の成果発表

- ・課題研究特別講座で行った取組についての成果発表を企画・実施すること。
- ・課題研究特別講座のグループ発表については、審査員による審査及び講評を行うものとする。
- ・課題研究については、全グループの成果が来場者に伝わるよう、ポスター発表等も企画すること。
- ・配付資料や会場チラシ等を活用し、事前に研究講座の内容の周知を図ること。

カ 各校の「総合的な探究の時間」、「課題研究」における課題研究の成果発表

- ・県内の各高校で行った取組についての成果発表を企画・実施すること。
- ・7月に実施した課題研究発表会における代表(3グループ程度)について、発表機会を設けること。
- ・年間を通じて、各学校における「総合的な探究の時間」、「課題研究」の取組状況を把握し、成果発表を行う学校(複数校)を大分県教育委員会と協議の上、選定できるようにすること。
- ・配付資料や会場チラシ等を活用し、事前に成果発表の内容の周知を図ること。
- ・課題研究の動画コンテンツの紹介を行うことで、県内生徒の課題研究の質の向上に努めること。

キ データサイエンスや宇宙、脱炭素、生成AI等をテーマに、科学に関わる体験型の企画

- ・グループワークや実験など、生徒が体験できるワークショップ企画を実施すること。
- ・講師の選定・折衝・対応等を行うこと。
- ・配付資料や実験、ワークショップで必要物品等を準備・配備すること。

- ク 危機管理対策
5(4) i)キと同じ。
- キ その他
5(4) i)クと同じ。

vii)宇宙甲子園事前ワークショップ

- ア 事務局業務
 - 5(4) i)アに加え、下記の点について留意すること。
 - ※ 会場手配に当たっては、模擬ロケットを打ち上げるための会場とすること。
 - ※ 中高生の参加を促すような広報を企画・実施すること。
- イ 会場設営業務
 - 5(4) i)イに加え、下記の点について留意すること。
 - ※ 一般の来場者(保護者も含む)の参加状況に応じた会場レイアウトとすること。
 - ※ 模擬ロケット打ち上げの際、参加者及び周辺地域住民等の安全対策を十分に行うこと。
- ウ 受付・総合案内業務
 - 5(4) i)ウに加え、下記の点について留意すること。
 - ※ 当日参加者の体調を把握すること。
- エ 開会行事・閉会行事の企画・実施
- オ 物品等の準備・配備
 - ・配付資料や模擬ロケット製作、ワークショップ等で必要な物品等を準備・配備すること。
- カ 危機管理対策
 - ・必要に応じて、会場内及び会場外に警備員等を配置すること
 - ・救護スペースを準備し、救護用品等を配備するとともに、近隣病院との連携など、緊急事態時の医療対応を行うこと。
 - ・屋外での活動となる場合は、熱中症対策の呼びかけ(水分・塩分補給、帽子や日傘の準備、通気性が良く吸湿性の高い衣類着用)や緊急時の経口補水液の準備等を行うこと。
- キ 免許申請サポート
 - ・宇宙甲子園ロケット部門の大会参加に必要なモデルロケットライセンスの申請手続きをサポートすること。
 - ・免許申請(申請に係る費用負担含む)は受託者が行うこと。
- ク その他
 - 5(4) i)クと同じ。

(5)動画コンテンツの作成・編集・公開

課題研究成果発表会における発表内容及び県内における課題研究の好事例を、県内高校の教員及び生徒が指導改善・学習に活用できるよう、動画コンテンツとして整備し、閲覧しやすい形で公開すること。

- ア 対象・収録
 - ・課題研究成果発表会にて収録した動画、課題研究特別講座における発表内容を対象として、撮影・収録すること。
 - ・県内高校の課題研究の好事例について、委託者と協議の上、対象校・好事例を選定し、

提供素材(既存動画等)の編集または必要に応じて追加収録を行うこと。

- ・収録に当たっては、音声の明瞭性を確保できるよう注意すること。

イ 編集

- ・視聴のしやすさ及び学習効果の向上を目的に、必要な範囲で編集を行うこと。
(例: 不要部分のカット、音量調整、画質調整、タイトル・見出し、学校名、テーマの表示、字幕等の表示)
- ・動画編集を行う際は、著作権、肖像権及び個人情報保護に十分配慮すること。
- ・BGM、画像、図表等を使用する場合は、権利処理が明確な素材を用いるか、各種申請手続きを行うこと。

ウ コンテンツ構成・閲覧性の工夫

- ・動画コンテンツは、分野(テーマ)ごとに閲覧できるよう分類し、検索・一覧性等に配慮した構成とすること。
- ・動画ごとに、少なくとも次のメタデータを付与すること。

【学校名、発表タイトル、分野(テーマ)、学年、概要、公開日】

エ 公開・共有の範囲

- ・編集した動画を公開するためのHPを準備すること。
- ・共有範囲は、県内高校教職員及び生徒とし、アクセス制限(ID/PW、限定公開等)を設定できる形とすること。

オ 権利関係

- ・本事業で作成した動画コンテンツの著作権は、原則として委託者に帰属するものとする。
なお、事業終了後も県教育委員会が追加・編集ができるようなものとする。
- ・発表者等の肖像権、第三者の著作権等について、必要な同意取得・許諾手続き等を適切に行うこと。
- ・学校から提出される各校の動画の肖像権や著作権等の各種権利については、協力する学校と連絡を取り合った上で学校と委託者の双方で確認を行うこと。

カ 実施計画・報告

- ・実施手順(撮影/編集/公開/納品)及び体制については、工程表を作成し、委託者と協議の上、進行管理を行うこと。
- ・公開した動画の本数、分類別内訳、作業内容、アクセス数等をとりまとめ、事業実施中間報告書、事業実施報告書に反映させること。

6 成果物等

下記記載の事業実施計画書及び各種実績報告書等を作成し、高校教育課の承諾を得るものとする。

提出するデータについては、Word形式・Excel形式・Power Point形式のうち、いずれか1種類とPDF形式のあわせて2種類とする。

● R8事業実施計画書

下記項目を盛り込んだ事業実施計画書を作成すること。

提出期限: 令和8年4月末まで

【項目】年間スケジュール(企画、打合せ等を含めた全体スケジュール)

関係者・企業・教育機関一覧

各企画の実施計画書(案)

- 学校向け案内用資料(チラシ・フライヤー含む)等、広報用として作成したもの全て
 - ・各企画実施の2ヶ月前までに原案を提出すること。
 - ・委託者と調整の上、1.5ヶ月前までに完成版を作成し提出すること。
 - ・SNSで広報(情報発信)したものについても、そのことがわかるよう工夫し報告すること。
- 各企画の実施計画書(詳細版)

企画実施の1ヶ月前までに提出すること。
- 事業実施中間報告書

下記項目を盛り込んだ中間報告書を作成し、電子データにて提出すること。

提出期限:令和8年9月下旬まで

【項目】事業中間総括(実施企画一覧、アンケート結果の分析、生徒の変容)

各企画中間総括(実施内容、申込者数、参加者数、アンケート結果の分析)

公開した動画の本数、分類別内訳、作業内容、アクセス数等
- 事業実施報告書

下記項目を盛り込んだ事業実施報告書を作成し、電子データにて提出すること。

提出期限:令和9年3月中旬まで

【項目】事業全体総括(実施企画一覧、アンケート結果の分析、生徒の変容)

各企画総括(実施内容、申込者数、参加者数、アンケート結果の分析)

公開した動画の本数、分類別内訳、作業内容、アクセス数 等

※当該年度の成果と課題を整理し、次年度に向けた改善提案を入れること。
- 作成した教材、コンテンツ等

HDD(USBメモリ可)に一式を格納し、令和9年3月中旬までに納品すること。

(例:各企画において使用した資料、講師作成資料、写真、映像、制作した教材等全て)

なお、データ化できないもの(実験キット等)は現品を2部納品すること。

7 その他

- 業務内容は現時点の予定であり、業務を実施するに当たっての詳細については、委託者との協議により随時、決定するものとする。
- 各業務に関して他の手法や必要な業務等がある場合は、幅広く提案・実施すること。
- 業務を実施するに当たっては、著作権、肖像権等に配慮するとともに、個人情報保護について関係法令等を遵守すること。
- 製作物の著作権は県に帰属する。受託事業者は第三者の著作権等の権利を侵害していないことを保証すること。
- 当該業務における打合せや会議等については議事録を作成し、その都度提出すること。
- 委託業務を遂行する上で必要となる一切の経費は、受託事業者が負担すること。
- また、委託者の求めに応じて、支出報告及び領収書等を提出できるようにしておくこと。
- 本仕様書に定めのない事項又は本仕様書について疑義の生じた事項については、委託者と受託者が協議の上、定めるものとする。なお、本業務の実施に当たり、作業に重大な影響のない変更は、委託者の指示により行うものとし、この場合における契約金額は変更しないものとする。